



三功
代表取締役社長
片野 宣之氏

御社は1995年おせち等が大量に廃棄されており、先代の社長が「もったいない」と感じたのが始まりで、片野當時、年末になるとスーパーなどのデリカ(惣菜)部から手掛けていたので、まことに生ごみの堆肥化事業を開始されています。が、きっかけは、片野當時、一般廃棄物の収集運搬業を中心にしていました。うちには、肥料するという事例が少なく、管轄の旧久居市では同様の許可を出しました。そこで、市を通じて県や環境省とも掛け合いで、各種法制度を精査。ようやく市で「再生利用個別指定制」を実現しました。

——農家ネットワーク「酵素の里」を設立しました。事業スキームに組み込まれていたのです。このよ

うな「具体性」は、排出側への営業の集運搬を行い、量の多さに応じて明確な料金

三功は1970年の創業以来、「活かせば資源・捨てればごみ」という理念のもと、いち早く各種リサイクル事業に取り組んできました。びん・缶・PETに始まり、生ごみについても堆肥化で実績を構築。さらに近年は、プラ・段ボールのリサイクルにも着手し、総合リサイクル業を完成させた。先見性のある事業展開で、常に業界の注目を浴びる同社。今回は堆肥化事業について片野宣之社長に話を聞いた。

——御社は1995年おせち等が大量に廃棄されており、先代の社長が「もったいない」と感じたのが始まりで、片野當時、年末になるとスーパーなどのデリカ(惣菜)部から手掛けていたので、まことに生ごみの堆肥化事業を開始されています。が、きっかけは、片野當時、一般廃棄物の収集運搬業を中心にしていました。うちには、肥料するという事例が少なく、管轄の旧久居市では同様の許可を出しました。そこで、市を通じて県や環境省とも掛け合いで、各種法制度を精査。ようやく市で「再生利用個別指定制」を実現しました。

「見える化」が顧客の信頼に総合R確立で事業安定も

きつかけです。

——廃の堆肥化に当たっては、許可の取得に大変苦労されたとか。

——御社事業の特長・強みとは?

「挑戦者の視点」

B

バイオマス
《第6回》
毎月第1・3週掲載



第1リサイクルセンターにある社屋の外観

| | |
|------|--------------------------------------|
| 代表者 | 片野宣之代表取締役社長 |
| 設立 | 1970年 |
| 資本金 | 1000万円 |
| 所在地 | 三重県津市 |
| 事業内容 | 産廃の収集運搬・中間処理・処分、一廃の収集運搬・処理許可、総合リサイクル |